

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ママーズの家
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市竹鼻町駒塚4番地1043
記入者名 (管理者)	吉田 淳美
記入日	平成 19年 8月 30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>弊社の理念「寄り添う介護 思いやりをかたちに…」をより深め、また訪問介護で培ったノウハウを生かして、地域でその人らしく生きることを支援している。</p>	○	「寄り添う介護 思いやりをかたちに…」に「地域との共生」を加え、地域密着型サービスに対応する。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティングや申し送りの際、理念に触れ、確認し合うようにしている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には、訪問時や家族会などで伝えるよう努めている。地域の方々には運営推進委員の方々を通じたり、見学会などで説明をしている。</p>	○	入居者の方がどう思うかに留まらず、家族の思いもなるべく汲み取り検討している。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的な挨拶、近所の方にボランティアで書道を教えて頂くなど、ふれあう機会が多い。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>民生委員さんのお世話でふれあいサロンの方々との交流会、お祭りのときに子どもみこしに立ち寄ってもらうなど交流に努めている。</p>	○	地域の回覧板のメンバーであり、地域の行事については、運営推進委員会や区長さんと相談しながら参加させて貰ったり、ご協力頂くことになる。着々と進行中です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	○	ふれあいサロンとの交流会を機に、介護予防教室や認知症勉強会などを開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。	○	我がグループホーム「ママーズの家」は、満1歳を迎え、初回の外部評価を受けることにより、スタッフ全体のチームワークに生かされている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ホームの様子・取り組みの状況を報告し、参加者の皆様方から、毎回積極的なご意見が頂けるので参考にしている。	○	今回の結果をふまえ、サービスの向上に向け ご意見をいただきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と開設時より積極的に情報提供し、サービス向上に取り組んでいる。	○	市職員から、市内グループホームの、参考となるケア方法、施設の充実度等、情報提供を求める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はないが、必要な方への対応がより良く行える様、ホーム内外で研修を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に掲示物を貼り、勉強会やミーティングなどで学ぶ機会を持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項やホームで「できること・できないこと」などを丁寧に説明する様になっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、ご意見・苦情を頂いた時は、それをスタッフ優位で結論付けていないか反省し、ケアに活かすように心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様のホームでの生活を知って頂くよう、毎月発行の通信も写真を入れるなど、ご家族に見やすいよう工夫している。	○ 身体の状態に合わせてプラン変更と、ケア内容については、主治医の指示を基に、スタッフ全員と検討し、家族へ伝え「同意印」を頂く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙・電話・訪問時・家族会等で常に、問いかけ言いやすい雰囲気をつくり、出た意見は運営に反映させている。	○ 家族会の中で家族同士の集りの場をつくるなど、意見を出し易い方法も考慮していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別相談やミーティングで意見を聴いたりしているが、スタッフから管理者へは言い難いスタッフもいる。管理者へ意見を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが望ましいと思うので、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎなどの面で努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内でのミーティングや研修には全職員が参加できる様工夫し、事業所全体の研修には順番で参加し、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>社内研修は基より、市内のグループホーム スタッフとも、交流を持ち、お互い良い影響力をもちながら、向上していきたい。(ミニ研修会等)</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内のグループホーム協議会などに参加し、サービス向上に活かしている。本年より市内の連絡会も発足し交流研修を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフが入居者様と離れ、一息入れる休憩時間と場所を確保し、リフレッシュできるよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>全社的な月例ミーティング＋研修＋定例親睦会におけるコミュニケーションとリフレッシュは、今後も継続する。また、常設の個別相談窓口も活用したい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行うと共に、運営者が定期的に面接を行うなどして、各自が向上心を持って働ける様努力している。</p>	<p>○</p> <p>運営者が、頻繁に来設し、スタッフの業務状況や、悩みを把握し相談助言をしていることが、意欲につながっている。現場管理者も協力し継続していきたい。</p>
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時より本人のおかれている状況、苦しんでいること困っていることを把握し、不安などを受け止め、信頼関係を築くよう全力を尽くしている。</p>	<p>○</p> <p>生活暦を把握した上で、出来るだけ楽しかったこと、自慢できること、個々のお気に入りや、スタッフ全員が共有しケアに生かしていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの家族の苦労やサービスの利用状況などをゆっくりと聞き、まずは、ご家族の気持ちを受け止めることに重点を置いている。</p>	<p>○</p> <p>入所の決断等、家族の気持ちを察し、安心して頂ける様な報告で、コミュニケーションを図る。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談をホーム入所に直結するのではなく、ご本人とご家族の困っていることを受け止め繋げていくよう取り組んでいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通常は相談・見学・おためし入所などで、慣れていただくが、やむを得ず、すぐ利用になった場合はご家族やそれまで関わっていた人達に来てもらうなどして安心感をもってもらっている。	○	利用者様の立場、視点に立って柔軟な対応をモットーとし、納得いただいた上での対応を理想とする。ただしやむを得ず急遽の時も、全力を尽くす。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活し、協働する中で支え支えられながら、穏かにすごせるよう言葉がけをしている。	○	偽家族が、喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に暮らせる様支援する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子など、写真入のお便りを出し、家族との情報交換などして、できる限り家族の方と同じ思いで支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の本人への思い、本人の家族への思い、双方の思いを受け止め、より良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所されても、これまでの近所の方やお友達と交流するように支援している。	○	デイサービスを利用されていた時のお友達などはデイサービス利用時に会話の時間を作る。 馴染みの美容院を利用するなど機会を設けている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	長年暮してこられた我家を離れての生活は、思い通りにならないことも不安も多い中で、リビングでの席の位置・会話のとりもちなど 注意深く見守る様にしている。	○	場面によって入居者様同志、なだめ役になったり、相談者になったりして支えあう力を引き出すよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方の近況を聞くなど、相談にのったり関係を断ち切らない付き合いをするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さまざまな場面で思いを引き出せる様、努めている。言葉や表情などから真意を推しはかり、ご家族などにもそれとなく確認するようにしている。	○	日々の暮らしの中、言動、表情から表現困難者の、意志伝達の手段を全スタッフで、共有出来る様、報告、申し送りの徹底
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握が難しい入居者様からはご本人だけでなくご家族からも情報を得たり、なにげない会話の中でご自分らしい生活が送れる様支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自分だけの見方に片寄ることなく、記録・他スタッフからの情報を得て、入居者様ひとり一人に全体像を把握する様、努めている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様にとって第2の我家であること、各々の事情の基で暮らしをご本人本位である事を基本に、全スタッフで検討会を持ち、内容によっては家族と共に話し合いプランへ反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングなどで、スタッフ全員と対応方法を検討し、問題提起・見直しをして新たな計画に反映させている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事摂取量・排泄量などは、わかり易い記入法を工夫し、身体的・精神的状況を記録をことばで申し送りし、勤務前に確認している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様 ご本人・ご家族の状況に応じて、通院、送迎などに対処し、馴染みの病院・美容院・喫茶など 外出支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんの計らいで”ふれあいサロン”との交流会、書道のボランティア、音楽関係のボランティアなど 地域の方々に協力を得ている。	○	昨年まつりの際、子どもみこし来訪で大いに盛り上がったのを期に、子ども会、小中PTA、保育園、老人会との交流も検討中である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、ホーム以外のサービスと繋げる様 地域のケアマネジャーと連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期的な視野に立って、マネジメントしていくために地域包括支援センターの方々に見学して頂いた。	○	今後、運営推進会議などにも参加して頂くなど、周辺情報や支援に関する協力関係を考慮していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族の思い希望に添って、ホームの主治医のほか 歯科、眼科をはじめ専門医の受診も行っている。	○	看護資格を有する職員に、常時相談・助言・介助を受けられる。主治医との24時間連絡可能な体制と共に活用していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	GHの看護師・介護スタッフの技量を高め、できるだけご本人・ご家族の意向に添える様、取り組んでいきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを重んじた言葉かけ、対応について深めるように心がけ、また倫理綱領に基づいて勉強会、ミーティングにて確認自覚し、業務にあつたている。	○ 全スタッフが個人情報保護法の基、一人ひとりに尊厳ある支援を徹底していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者自身が決定されることを大切にし、おやつ時の飲み物を一人ひとりお聞きし選んで頂くなど些細なことでも本人が決める場面をつくっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、強制することなく体調、気分に合わせて、その時ご本人の気持ちを尊重して支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度の訪問美容室をご希望により利用して頂いたり、希望者には入所前に通ってみえた馴染みの美容室を利用して頂いている。また、着替えなどが自己決定しにくい利用者様にはスタッフが一緒に考え支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一日の大切な活動のひとつと捉え、一人ひとりできることを手伝って頂いている。調理そのものでなくとも、会話などを通じて食事が楽しみになる様支援している。	○ 食材の利用方法等、入居者様が、過去どの様な調理をされていたかを、聞き出し、家族のため一生懸命であった頃の話話を膨らませ、会話の絶えない、食卓としていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのものを一緒に買い物をしたり、ご本人の様子や時間をみながら嗜好品を楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援している。	○	個々の体質を全スタッフが把握し、さりげなく誘導。トイレ排泄成功を継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴がくつろいだ気持ちの良い時間になる様、言葉かけやタイミングに気を配っている。また裸になることへの不安や羞恥心、恐怖心に配慮しながら介助している。	○	四季どの季節においても、入浴は健康のために求められる。羞恥の緩和と安楽に配慮しながら継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の個別の疲れ具合に合わせて一人ひとりいつでも休息をとって頂ける様にしている。夕方からは穏やかで安心した時間を過ごし就寝に向けてリズムが安定するように心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様お願いできそうな仕事(洗濯物たたみ、掃除など)をお願いしたり、楽しみごと(創作活動、外出など)の支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いもの、美容院に出かけたときには可能な限りご本人に支払いをしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散、これまでの生活の継続として散歩、デイサービスとの交流、庭先での食事会、野菜の収穫、喫茶外出など行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人が行きたいと思う外出については予め計画を立て職員の勤務を調整しながら徐々に始めている。場合によっては事務所の他部所からの協力を依頼することもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや会話が他の利用者様に聞こえないよう電話の設置場所を工夫している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人など気軽に訪問して頂けるようまずはスタッフが笑顔で迎えるよう心かけている。訪問時間も定めておらず都合の良い時間帯にいつでも訪ねて頂ける様な配慮をしている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り等でその日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を話し合いまた一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細やかにキャッチすることで自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録など事務作業を行いながらさりげなく全員の状態を把握するように努めている。夜間は二時間毎に利用者様の様子を確認するとともに起きられたときにすぐ対応できる様工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、利用者様の状況変化によっては注意を促していくケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に職員で予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐため、小さな情報も逃すことなく交換している。またヒヤリ・ハットをわかりやすく記録し全員で確認している。小さな事故でもご家族への報告と今後の予防策を盛り込んだ報告書を提出し検討している。	○	火災・事故防止の一環として近隣の建物等で危険な場所の確認をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急手当に関して実技を含む勉強会を随時行っている。また夜間の連絡体制は明確に示されている。	○	消防署や行政関係者の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を予定している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との協力体制は自治会でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。	○	消防署の協力を得て、避難訓練を予定している。地域の訓練への参加、地域消防団との連携も進めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりの利用者様のご家族とケアプランの作成時、家族会、訪問時などに個別に話し合う機会を持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色・様子に注意し、言葉かけを怠らず、変化が見られる時にはバイタルチェックを行い、看護師、管理者に報告、状況により医療受診につなげている。	○	一人ひとりの利用者様の持病、アレルギーの有無の確認、変化が起こった場合の職員間の情報共有の徹底。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は個人ファイルに詳しく明記され、保管棚の前には早見シートを貼って確認している。また飲み忘れ、誤薬防止のため、くり返し確認している。	○	スタッフ全員が薬の内容を把握し、服薬後の変化についても勉強会を行うなどし取り組んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の摂取量をチェックし、体操やレクリエーションなど身体を動かす機会を設けて、自然排便ができるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯みがき、うがいの声かけを行い、力に応じて、職員が見守り、介助している。就寝後は義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日チェック表に記入し、職員が情報を共有している。また定期的に栄養士のアドバイスを受けている。	○	個々の症状にあわせ内容を考慮し、時間を掛けてでも摂取いただけるよう、気長な対応をする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症についてマニュアルをつくり全職員で学習し、予防・対策に努めている。また職員共にインフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用している。更に、訪問者にも手洗い、うがいをお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は熱消毒、布巾・まな板は漂白し、清潔を保つよう心がけている。また食材の点検は小まめに行い、無駄なく使用できるよう工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるよう、駐車場や裏庭に花壇を作り、玄関先にはプランターを置いたり、椅子も置き、一休みできる様工夫している。また、玄関・リビング・洗面所に花を活けたりし、季節感を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの高さ、椅子の高さなども一人ひとりに合わせて調節し、テレビ・新聞・雑誌など自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるように工夫している。	○	入居者様皆様が、お顔を見合える様、対話を好まれる方は、対話の出来る方の近くへと配慮し、テレビ番組に於いてもその都度好みを聞く等楽しんでいただくための工夫をする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下などにソファを置き、利用者様同士で会話が弾み、くつろげるスペースになる様工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んだり、家族の写真・自分の作品を飾るなどして自分の部屋だと実感できる様工夫している。	.	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えは、定期的に行い、室温調節も利用者様の発汗や冷えに注意しながら常時行っている。特にトイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない様になっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の姿勢が保たれるテーブル、座りごち立ち上がり易い椅子・体型に合った車椅子など一人ひとりの状態に合わせ、かつ自立を意識し工夫している。	○	浴室の改善について知恵を絞りたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら自分の力でやっていただけるか？」を追求し、今までの生活に近い形で状況に合わせて環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	車椅子の方も外の空気や景色を楽しめる様、玄関先や裏庭に花を植えたり、畑を作ったりと楽しめるスペースにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の現在持ってみえる力を最大限に活かし、ママーズの家を第2の家として心豊に過ごして頂ける様、最大限の努力をしています。その中で、楽しみのある生活を送って頂ける様、趣味活動・レクリエーション・外出などを可能な限り行っていきます。